

[第646回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和4年4月21日(木) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 産経新聞大阪本社

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎
たつみ 都志 鎌田 雅子
徳永 潔
萩原 章男(書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉田 禎宏 安東 義隆
赤松 加枝子 和田 麻実子

4. 議題

1) 番組審議 『あれも！これも！SDGs』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題 1) 『あれも！これも！SDGs』について、番組の企画意図と内容を説明し、番組を聴取した後審議に入った。

6. 審 議 内 容

社 側 地球規模の取り組みである SDGs。難しく捉えていませんか？
SDGs について一緒に知っていきましょう、という 15 分間の番組です。
取り組んでいる関西の企業や個人の方にゲストでお越し頂いています。
ラジオ大阪は“OBC リスナーと作る・考える SDGs” をコンセプトに
SDGs の啓発・発信を進めております。
視覚障害者の方へ募金を募る『ラジオ・チャリティ・ミュージックソン』
や防災について啓発する『防災特別企画』などリスナーやスポンサーの
皆様と一緒に社会課題解決を目指しています。
『あれも！これも！SDGs』では、リスナーに SDGs を身近に感じてもらう
ため、様々な情報を発信したいと考えています。
今回ご審議いただく内容は 2022 年 2 月 11 日・18 日放送分です。
・2 月 11 日 内容「チョコレートの原料カカオと SDGs について」
・2 月 18 日 内容「カカオ生産と価格・労働問題について」

<各委員のご意見>

委 員 「あれもこれも SDGs」のタイトルに不安を感じながら聴き始めた。
エシカル消費を個人に生活レベルで推奨するありがちな番組になって
いるのかという思いがあったが、実際の放送では立花商店さんが、カカ
オトレーダーとしてカカオの品質を上げて、それに見合った価格・取引
を行うということで事業の継続性を図られることを前提としつつ、カカ
オ生産者の努力に見合った生活水準の向上を図ろうとされている、
「SDGs」の本筋に沿ったとも言える取り組みを紹介する内容だった。
わずか 30 分間の番組だが、生産者の努力によって品質が良くなった
カカオが、多くの手を経ながらも、消費者が納得して高く買おうという
好循環が生まれることをリスナーが期待するいい内容になっていた。貧
困・児童労働・教育などの問題をその地域での実情の中で現実として捉
え、一歩ずつ改善しようとされる、地に足のついた取り組みをされてい

ると理解できた。

例えば、児童労働についても就学の機会を奪われ、体の成長を阻害するもので、世界基準では悪い重労働に当たるが、現地の常識では自然な家庭内の助け合いで悪気はないことなど、遠くから見るだけではわからない考え方に触れることができた。最後に呼びかけもあったが、世界で起こっていることを背景まで知ること、考えることの大切さを感じとれる話だった。

私自身もこれから生産地のブランド化や生産者の顔が見れる取り組みなどが広がっていくといいと感じている。今回の番組をきっかけで高いチョコレートを買う時に抵抗感が少しなくなるかもしれない。

なお、今回は15分番組を2回まとめて聞いたのでわかりやすかったが、15分で切ると、ゲストの皆さんが語り切れず、いい話ほど伝わりにくいかと思うので、その点工夫をして頂きたい。

委員 「SDGs」を思いネットで調べた所、5つのPが出てきた。「People（人間）」「Prosperity（豊かさ）」「Planet（地球，世界の問題を解決）」「Peace（平和）」「Partnership（パートナーシップ）」。このように説明がいっぱい出てきたものを見て、最終的に今まで一人の人間として、色々配慮しながら生きてきたことを、改めて何か目標化している、そんな感じがした。

だから「SDGs」「SDGs」と言われてもよくわからなかったが、今回の番組の中でカカオ・チョコレートということに特化して、それを「SDGs」の立場から分析したら「こういうことが見えてきますよ」ということを言いたいのだと思った。

ただ「SDGs」を皆さんにもっと身近に知ってもらうために「こうこう、こういうふうに行っているんですよ」みたいな大上段的なコメントが最初に欲しかった。番組を初めて聞いた人が、私がやったように「SDGs」をネットで調べて、その「様々な意味の中のこの部分ね」と理解する人ばかりではないと思うので、何か最初の言葉か締め言葉で、解説的なことがあればもう少し番組の目標値がわかりやすかったのではと、そこは残念。

しかし、番組を聴いていた時は何の問題意識もなく、「あっチョコレートはそうやってできているんだ」とか、「あ〜すごい貧困の中でみんな頑張ってるんだ」とか、「頭の上に果物を乗せて背が伸びない」とか、そういうことがあるんだという新鮮な思いがした。だから聴いた時に対しては何の問題もなく、いい番組だと思った。

委員

私も正直ニュースなどで「SDGs」っていう言葉を聞いたことがあるくらいで、まあなんとなくプラスチックごみを減らすとか、そういうくらいの知識しかなく、そこまで意識して取り組んでいるわけではないので、「SDGs はなんぞや」ということを教えてくれるのかと思い最初は聴いていた。私自身が「SDGs」をよくわかっていないのがまず問題かもしれないが、そういう方は多いと思う。なのでやはり番組の冒頭に本当に簡単でいいので、「SDGs」って何なのかという所を少しでも入れてほしかったと思った。

普段は身近な話題が多いとは思うが、今回はテーマが身近なことではなく、ちょっと重い内容だったので、「SDGs」が飛んでしまったという印象を受けた。今回はカカオ豆の輸入商社の方へのインタビューだったが、栽培国での問題で、どこがどう「SDGs」と関係があるのか、私にはわかりにくかった。児童労働の話も出て来て、商社の方は「それほど問題はなくて家庭内での手伝いの感覚である」と、わりと明るくやっているとというような方向に話を進めているような印象も受けた。

10年以上前にTVで、アフリカの山奥で親の手伝いをしている子供のドキュメンタリーの番組を見たが、確かに子供たちは明るく過ごしていたが、でもこの子供たちは職を選ばず一生この森の中で、この世界で生きて行くんだと思って、そうなったら逆に暗く辛い気持ちになったことを、この話を聴いて思い出した。

今回の話を聴いていて、使う側・使われる側の問題、劣悪な労働環境、安い賃金の問題が山積みになっているのが私にも想像ができた。そこでこの会社がどのような対策をしているのかという話が、今回の「SDGs」に関わっているとは思うが、もう少しこの会社が具体的に意図を、例えば高く買い上げて、井戸を何個作って、何人教師を派遣してこうなった、というような、この会社が取り組んだ具体的な話を掘り下げてほしかった。そこが、今回この番組の落としどころ、肝だと思うので、この取り組みを聞いてもうちょっとスッキリしたかったと思う。

価格を上げるのが難しいので、生産性を上げる方向でとおっしゃっていたが、そうすると貧困層にかせられる仕事が重くなってしまうのではないだろうか、この子供たちが大丈夫かなと心配になった。

内容が私には重かったので、その「SDGs」に気持ちを持っていけなかったというのが正直な感想。おそらく他の回（放送）だと、もっと身近な話題でもっと全然違うかもしれないが、今回に関しては「SDGs」と理解するには私にはちょっと難しかった。

委員 30分間という時間が短く感じるぐらい、内容的には非常に充実していて興味深く拝聴させて頂いた。良かった点をあげると、まずはカカオ・チョコレートは非常に身近であり、それがバレンタインの直前でタイミングの良さもあって、関心が集めやすいということ。テーマ設定は非常に良かった。総じて本当に私にとってはためになった30分間であった。

立花商店の生田さんは、話も非常にテンポが良く、話慣れているという感じで、話の展開とか興味がそそられるそういう内容を随所に盛り込んでいた。生産国の比率だとかそういう数字的な所も伝わったし、そこから転じて問題提起・入り方、貧困の問題、児童労働の問題、生産者の取り分が少ないなど、そういう話の中から独特な表現「幸せを運ぶチョコ」に隠されている影の部分というのを取り出して「なるほどな」と、チョコレートの裏側にはこういうものがある。

最初の方、「SDGs」はテーマとして固いものだが、リスナー1人1人に落とし込んで、「SDGs」の取り組みは、じゃあどうしたらいいのかと生田さんに問いかける形で、まずは関心持ってほしい、そして自分自身から一歩踏み出してほしいと、関心の先にアクションを起こしてほしいというメッセージ性も非常に伝わってきた。その結果、私自身もチョコを選ぶ際に見方もちょっと変わったと感じた。

あと、生田さんはどんな人なのかと思った。世界各国を飛び回り、色々な視点を持っていらっしゃる方なんだろうなという風に感じたが、業務上以外でどんな人なのかと、そんな興味もありましたし、立花商店自体の規模感、本社がどこにあって、どのくらいの規模で、何人くらいの方が働いていて、というようなことがわかれば、「カカオを扱っている商社」で、どのくらいの大きさの企業かがわかるといいと感じた。

あとはもう一点、「SDGs」の問題としてカカオという一つの食品に、原材料に限定していたが、こういった食のサプライチェーンをめぐる問題、よく言われるのが南北問題、先進国の豊かな食が発展途上国の犠牲の上に成り立っている、そういうことを是正していこうという動きがあるが、そういう所にリスナーの方が注目して、カカオだけにとどまらず、あらゆる食卓に並ぶものがグローバルなサプライチェーンで成り立っていて、その1つ1つが崩れると大きな問題になってきたり、今言っているような南北問題ようなことがあって、食を食べるごとに色々考えたり、こうしていかなくちゃいけないとかなど、広く関心を提起させていくという意味においては、カカオだけでなく、もう少し2~3品ほど、提示してもいいのではないかと思った。

委員 「SDGs」というのはよく知らなかったが、検索して見たら「持続可能な発展性のある目標」。今回、私はチョコレートが好きなので、チョコレートの話、カカオの話は個人的には良かった。番組も基本的には聞き取り安くていい番組だと思う。ゲストの方も聞き取りやすいしゃべり方をしており、非常にわかりやすい話であった。

今回の話は、まずは数字や地理的な問題もちゃんと押さえて、そういう所は非常にわかりやすかった。この番組は、短い番組だが、途中で他局に変えないと思う。一応興味はなくても、何となく聴いて、最後まで聞き終わるとは思う。地理的に押さえていたアフリカはもちろん、南米・アジア、そういう所でも作っているということに「なるほどこういうことか」と思った。

それから、スパンの長いビジネスをやっていて、今すぐに儲かるとかそういうのはダメだと思う。そういう意味でこれから、要求されていること定位を取っている番組だと思うし、知らないこと教えてもらえると大変喜ばしい。例えば今、新聞はウクライナの記事が多くて、日本にとってウクライナという国がどういう国かわかってきた。ビジネスにおいても同じようなことはあるので、どんなことになっているのかという、そういう意味では問題を提起してくれているいい番組だと思う。

強いて言うと、もう一回そのことで印象に残って、覚えておこうと思うような要約が欲しい。解決策みたいな結論ではなく、話としての一つの締めで良い。

委員 実にいい番組で、皆さんに知ってもらいたいと思う番組。差別とか貧困とか色々な問題を抱えている中で、2月のバレンタインデーの前ということでチョコレートの話題にしたことは非常に良かったと思う。私はいつもチョコレートを持ち歩いているが、現実、この話は非常に大きな問題を抱えていて、おそらくここにおられる（番審員）中で、私は一番このことが体験的によくわかる年代。

75年前の日本というのがそういう貧困の状況であって、子供の働きが一家を支えるということがあった時代。今日があるのは、世界の色々な所からありがたい物を送ってもらってその物資で成り立ってた。それを思うと、この「SDGs」をここで論じられるということは、豊かな日本になっていると思う。

和田アナウンサーによれば、たくさんの方に聴いてほしいので、時間移動の相談をしたそうだが、これは非常にいいことだと思った。

ただ、他の方からの意見もあったように「SDGs」と最近よく耳にはするけど、詳しいことはわからないので、「SDGs」を15分という短い時間の中で簡単に説明するのは難しいが、最初にわかるよう説明すると親切。カカオ豆を作っている子供たち本人も、家族も日常のことだからわからないと思うけど、客観的に日本人の中や、日本の企業の中でそれが見えて、それを手伝っているわけなので、いいことだと思う。今回はチョコレートの話題だったが、他にも協力したいという声があると聞いている。商業放送だから、笑いも大事だし、他も大事だと思う中、この番組は正直、非常に地味だが、この番組はそういう番組でいいと思う。大事にやって頂きたい。

社 側 貴重なお意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第646回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」内で放送
放送日 令和4年5月25日(水) 22時50分～23時00分
- ・「番組審議会だより」 (第646回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。

9. その他の参考事項

訂正放送または取り消しの放送の請求及び請求に対しての措置が無い旨を報告。

以上